

ひむか支部 第9回定時総会 議案

第1号議案 2021年度（第8期）の活動を 振り返って

1、はじめに

2021年度は、2020年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症が猛威を奮いました。10-12月期には収束も期待されましたが、年明け後は再び感染が広がっている状況です。経済における影響も大きく、行動制限による需要減、原料高や調達難、国際情勢の予測困難、先行きには不安材料が多い状況です。

今後は、ワクチンや飲み薬の効果と普及状況により経済活動の拡大が期待されるところです。

同友会では、1社もつぶさないを合言葉に、会員同士が励まし助け合いながら学びを实践する活動を目指しました。

コロナ禍において、会員との交流が難しい状況が続く中、オンラインを中心とした学習会、知り合う会を開催することで、会員を一人ぼっちにしないことを目指しました。

今期の活動で特筆すべきは、①3回構成のSDGsの学習会を開催できたこと。②第30回みやざき中小企業経営フォーラムに過去最高のゲスト16名をお誘いできたこと。③他団体との交流に対する機運が高まったこと。等が挙げられます。

改善すべき点としては、①行事に参加する会員が固定化されていること。②各種調査やアンケートへの回答率が低いこと。等が挙げられます。

2、「支部例会の開催と参加率の向上をはかる」を振り返って

2021年度は、9月と3月の2回例会を開催しました。例会づくりに関わる会員を増やすことを目的に、4カ月前から準備に取り組むことに重点を置きました。入会間もない会員に室長を務めてもらう等、成果を得られました。

9月例会には、支部会員9名（30.0%）、ゲスト1名、3月例会には、支部会員13名（40.6%）、他支部会員1名の参加でした。2021年度方針に掲げていた会員参加率30.0%は達成できましたが、ゲスト5名以上をお誘いする目標には届きませんでした。お誘いができなかった要因として、準備が大幅に後ろにずれ込むことでお誘いする取り組みが不十分だったためだと思われます。

また、オンライン開催の場合、参加者の反応を確認しづらいこと、資料の見せ方やタイミングを計りづらい点等からつくり込みに改善が必要となります。具体的な改善策として、

2022年度は、本番形式のプレ報告会を複数回実施して対応をはかっていきましょう。

9月例会では、昼間に開催する試みを実施しました。昼間に開催することで夜参加できない方の参加等のメリットもありましたが、反対に昼間に参加できない方もいました。開催方法を含めて2022年度も開催時間について検討していきましょう。

3、「知り合う会の開催で、会員同士の積極的な交流につなげる」を振り返って

3回の「知り合う会」を開催しました。会歴の浅い会員に報告してもらいました。参加者との交流を通じて、それぞれの経営や経営者としての考え方や違いについて学び合いました。例会よりもハードルを下げることで、新規の会員でも気軽に参加できる雰囲気であり、一定の成果を上げることができた。今後の課題は、例会や運営への参加につながるプログラムづくり込みと考えます。

4、「学習会を開催して、同友会の学びを深めます」を振り返って

コロナレポート交流を支部内で開催する前に、準備会として幹事による報告会を2回実施しました。レポートでは、自社の現状や強みや弱みを客観的に知ることができることが確認できました。2022年度は学習会の内容づくりに生かしていきましょう。

SDGsについて3回シリーズの学習会を開催しました。カードゲーム形式で楽しみながらSDGsの本質を学ぶことができ、参加者からは「自社でも取り組んでいきたい」という声も聞こえてきました。3回の開催を開催することで、自社がどのようにSDGsに取り組むかをじっくり考えることができました。

労務管理に関する学習会も1回開催しました。支部会員の社労士に講師を務めてもらいました。このように同友会理念を学んでいる専門家から学ぶ取り組みは今後も続けていきましょう。学習会では、講義形式の報告になることがありますが、オンラインで開催する際は特に、時間配分や進行の見せ方（事前に質問事項を募り、質疑応答の形式を採る。何かしらのワークショップを実施する。等）で参加者を飽きさせない工夫が必要です。

5、「地区活動を活発化します」を振り返って

コロナ禍において活動が制限させる機会が多く、対面での地区活動（会員訪問や懇談会、食事会）の開催は難しい活動

でした。また、地区による活動の差も見られました。

コロナ禍が落ち着いたら、皆で集まって交流親睦会を開催したいと考えています。遊びの要素も大切だなと感じています。

6、「会員40名を目指します」を振り返って

2022年3月末会員32名（入会2名6.5%、退会1名3.2%）となりました。他団体との交流を通じて、ゲストのお誘いや会員獲得にもつなげる活動が、具体的に動き始めました。

支部幹事会と新富町のこゆ財団との懇談会を7月にオンラインで開催しました。学校教育と中小企業をつなぐことをテーマに今後も交流を続けていきましょう。また、こゆ財団から、第30回経営フォーラムの分科会でパネリストを担ってもらうなど内容づくりにも参画して頂きました。これらの活動がフォーラムのゲスト参加16名（ひむか支部として過去最多）に大きく寄与しました。

また、2021年度の入会者にロータリークラブに所属している方がいました。これまで直接交流の無かったロータリークラブやライオンズクラブの比較的若い会員であれば、同友会に活動に共感を得られるのではないかと考えられます。こちらから「あの人は入会しないだろう」と決めつけずに、積極的にお誘いをしていきましょう。

その他、学習会やフォーラムの案内チラシを各地商工会議所や商工会等に置いてもらっていますが、現時点では目立った効果はないようです。また、近年の新型コロナの影響もあり、地元金融機関との交流が進展していません。

ひむか支部の大きな課題として、ひむか地域における中小企業家同友会の知名度を上げていくことがあります。2021年度は支部の広報戦略委員によるSNS発信を始めました。広報活動を継続させていくことが大切と考えます。

コロナ禍の影響等で退会希望者もありました。会員同士とのつながりを絶たないよう、幹事や地区会で、積極的に声を掛けあいましょう。

7、「DoyuFridayを会員増強、交流活動に活用します」を振り返って

コロナ禍により訪問活動をしづらい状況が続きました。状況を判断しながら役員による会員訪問活動、ゲスト訪問などは継続してきました。一方、会員を巻き込んだ支部全体での盛り上がりには及びませんでした。会員・ゲスト訪問は、いろんな企業経営の考え方や業種のことなどが知れ、自社経営にいかせることが多くあります。2022年度は訪問活動を支部会員で行っていきましょう。

8、「支部運営に広く会員に関わってもらいます」を振り返って

LINEの会員名簿作成により、連絡網は確立することができました。行事の案内や情報交換に活用していきましょう。

9、「オンラインのメリットを生かして学び合います」を振り返って

全国や九州規模の大会にも参加し易くなりました。ひむか支部からは延べ7名の参加がありました。ただ、参加者はほぼ固定されており、会員への広がり是一部に留まっています。各県に行かずとも全国の経営者との交流ができるようになっていきます。2022年度は積極的に全国行事に参加して学びを広げていきましょう。

2021年度（第8期）活動の記録

1. 支部会員数の推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
月初会員数	31	31	31	30	30	30	
入会数	0	0	0	0	0	0	
退会数	0	0	1	0	0	0	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	30	30	30	30	31	31	
	0	0	0	1	0	1	2
	0	0	0	0	0	0	1

* 期末会員数32名

2. 例会等の開催

第8回定時総会

4月22日(木) Zoomで 9名
内訳：会員9名(29.0%)

6月知り合う会①

6月1日(火) Zoom会議で 12名
「力を合わせて、これからの経営を考えていこう」
小原農園 小原拓也氏
内訳：会員12名(38.7%)

6月知り合う会②

6月29日(火) Zoom会議で 15名
「力を合わせて、これからの経営を考えていこう」
イノウエスポーツ 代表 甲斐宣行氏
内訳：会員11名(36.7%) + 他支部3名 + ゲスト1名

7月同友会を知る会

7月12日(月) Zoom会議で 10名
「同友会での学び方」
TNAリアル・ソリューションズ(株) 代表取締役 竹原英男氏
内訳：会員9名(30.0%) + 講師1名

8月学習会

8月26日(木) Zoom会議で 11名
「今知っておきたい労務管理のポイント」
猪野社会保険労務士事務所 所長 猪野国暁氏
内訳：会員10名(33.3%) + 他支部1名

9月例会

9月28日(火) Zoom会議で 16名

「BCPで自社が強くなる～事業継続力計画認定制度について～」

(株)ティーディエス 常務取締役 田村洋子氏

内訳：会員9名(30.0%) + 他支部6名 + ゲスト1名

10月学習会

10月26日(火) 新富町総合交流センターきらりで11名

「SDGs ってなに？カードゲームで本質を知ろう！」

ファシリテーター：宮崎同友会 事務局長 結城 美佳氏

(2030SDGsカードゲーム公認ファシリテーター)

内訳：会員6名(19.4%) + 他支部1名 + ゲスト1名

+ 会員企業3名

11月知り合う会

11月22日(月) 新富町総合交流センターきらりで11名

「力を合わせて、これからの経営を考えていこう」

Volonte de RyuKyu 琉球の氣力 代表 新奈央子氏

内訳：会員8名(25.8%) + ゲスト3名

12月学習会

12月15日(水) 高鍋町商工会議所 11名

「我が社とSDGs」

KIGURUMI.BIZ 代表取締役 加納ひろみ氏

「SDGs de 地方創生」

シリテーター：宮崎同友会 事務局長 結城美佳氏

(『SDGs de 地方創生』公認ファシリテーター)

内訳：会員7名(23.3%) + 他支部2名 + ゲスト2名

1月学習会

1月28日(金) Zoom会議で 9名

「自社のSDGsのターゲットを考えよう」

ファシリテーター：宮崎同友会 事務局長 結城美佳氏

(2030SDGsカードゲーム公認ファシリテーター)

内訳：会員5名(16.1%) + 他支部1名 + ゲスト3名

3月例会

3月31日(木) 高鍋町中央公民館で 11名

「あなたが突然いなくなる。その時、会社はどうなりますか。～災害や感染症、突然の入院。予期せぬ事象は明日にもやってくる～」

(株)琴弾 代表取締役 堀内昌彦氏

内訳：会員13名(40.6%) + 他支部1名

第3回 6月2日(水) Zoom会議で

参加：5名(100%)

第4回 7月7日(水) Zoom会議で

参加：5名(100%)

第5回 8月4日(水) Zoom会議で

参加：5名(100%)

第6回 9月1日(水) Zoom会議で

参加：4名(80.0%)

第7回 10月6日(水) Zoom会議で

参加：4名(80.0%)

第8回 11月4日(木) 高鍋町中央公民館で

参加：4名(80.0%)

第9回 11月29日(月) 新富町商工会で

参加：5名(100%)

第10回 1月7日(金) 新富町商工会で

参加：5名(100%)

第11回 2月2日(水) Zoom会議で

参加：4名(80.0%)

第12回 3月2日(水) Zoom会議で

参加：5名(100%) + 次期幹事1名

第13回 4月6日(水) Zoom会議で

参加：4名(80%) + 次期幹事1名

第14回 5月11日(水) Zoom会議で

第2号議案**2022年度（第9期）の活動方針
と活動計画****活動スローガン**

学びを实践に！強靱な企業づくりを自社から地域に広げていく

はじめに

2022年度も新型コロナウイルスや国際情勢の動き等の不確定要素が経営環境に多大な影響を与えることでしょう。そのような中でも我々経営者は、事業の存続と発展、雇用の確保に責任を持って取り組みねばなりません。同友会での学びと実践は、その大きな手助けとなります。

私たちは、支部創設以来、以下の4項目を目指して活動を進めてきました。

- (1) 私たちは、「同友会理念」「労使見解」を自社に生かし実践し、いかなる環境変化にも対応できる強靱な企業(21世紀型中小企業)づくりをすすめていきます。
- (2) 私たちは、より多くの人びとが、豊かな暮らしを展開し、維持できる地域づくりをすすめていきます。

3. 幹事会の記録

第1回 4月22日(木) Zoom会議で

参加：5名(100%)

第2回 5月14日(金) Zoom会議で

参加：5名(100%)

(3)「企業づくり」「地域づくり」を両輪とし、それを支える「人が育つ環境づくり」を自社や同友会内外においてすすめていきます。

(4)私たちは、支部活動を通じて、一人ひとりと向き合い、顔の見える同友会づくりをしていきます。上記を目指すにあたり、2022年度の県活動方針を反映して以下の9項目を支部活動方針とします。

1、互いの経営体験の交流の場の充実。

例会を4回開催します。うち、1回は青年部会との合同例会とすることで地域の青年経営者を取り込む場とします。例会への会員参加率30%以上、各回ゲスト5名以上を目標とします。

また、SDGsに関する学習会を3回開催、知り合う会を2回開催します。気軽に参加できる雰囲気のある場を設けることで参加者を増やします。

地区活動を継続します。尾鈴地区、高鍋地区、新富・西都地区で月1回以上集まり、会員訪問やランチミーティング等を実施します。支部会員が気軽に参加できる親睦交流会を開催します。

2、経営指針の成文化と実践の推進。

宮崎同友会では、「経営指針をつくる会（理念編・方針計画編）」、「経営指針を見直す会」が開催予定です。ひむか支部からはそれぞれ2名以上の参加を目指します。そのためにも、新会員や会歴の浅い会員に指針経営の重要性を伝えるため、知り合う会では指針経営について学ぶきっかけづくりをしていきます。

ものにするために支部会員対象で定期的にオンライン会議を開催します。

3、地域に若者を残す活動の推進 ——採用し、共に育つ企業づくり

共同求人活動にひむか支部から1社以上参加を目標にします。2022年度は交流会などの場で経験者に報告してもらい、共同求人への認識を高めていきます。

2021年度、一般財団法人こゆ地域づくり推進機構(以下、こゆ財団)と交流を持ったことで、地域の中小企業と学校がお互いを知り繋げる活動を進めることが重要だと痛感しました。他支部の先進的事例も参考にしながら学校との関係性を築いていきます。この取り組みは他団体(こゆ財団や各地商工会議所、商工会、JC等)と連携して取り組むことが効果的と考えますので、5「産学官金および他団体との連携の強化」の視点でも活動をすすめていきます。

4、会員参加率の向上

例会参加率30%以上、アンケート調査の参加率50%以上を目指します。

各地区活動において、アンケート参加率向上を重点活動の

一つとし、LINEでの情報共有や会員訪問、電話により促していきます。

5、産学官金および他団体との連携の強化

地元金融機関である高鍋信用金庫から連携強化に向けて手ごかりを模索していきます(例会や学習会の案内、懇談会)。

6、全国へ学びの視野を広げる

オンライン開催のメリットを生かして、全国や九州規模の行事に延べ10名参加します。

役員が中心となって、一般会員に行事の案内やオンラインの操作方法を伝えていきます。

7、ひむか支部地域内での会員の組織率を高める

支部会員数45名を目標にします。西都市や都農町等の組織率が特に低い地域にも力を入れていきます。具体的な行動としては、商工会議所や商工会への行事案内、SNSの活用、支部内外会員のネットワークを活用していきます。ぜひみなさんの周りで悩んでいる経営者、困っている経営者がいたら、「仲間がいるよ」と同友会にお誘いください。支部幹事だけでは限りがあります。今こそひむか支部が一丸となって、同友会型企業をひむか地域に広げていきましょう。

10月に開催予定の第31回みやざき中小企業経営フォーラムを増強の中心に据えて計画的に活動します。第30回経営フォーラムにお誘いした16名のゲスト参加実績を上回る成果を目指します。

8、同友会運動の推進を支える体制を強固にする

例会づくり等の運営に携わる会員を増やすことで、自主運営ができる体制を整えていきます。

ひむか支部、そして宮崎県同友会を支える人材を育てていく。支部幹事や理事を継続的に選出していける体制をつくります。

9、5年後のひむか支部のビジョンを描く

5年後の2027年3月末には、会員85名、経営指針実践企業30%以上、黒字企業60%以上となるように取り組んでいきます。

真剣に経営を学び続ける経営者の集まりとして、地域内の経営者から認められる経営者団体となっていきましょう。

ひむか支部は2024年3月20日に支部設立10周年を迎えます。準備段階として、2022年度は担当幹事を中心として、10年間の振り返り、支部活動理念の見直し、活動計画の策定を進めていきます。

■活動計画

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
県総会						県フォーラム	DoyuFriday		新春経営者交流会		
			例会		例会		例会				例会
		学習会						学習会	学習会	学習会	
				知り合う会 交流会				知り合う会 交流会			